

授業改善をさらに一歩進める —研究主任の取組—



北信地区5会場で分散開催した9月の研究主任研修会では、コロナ禍における各校の研究推進・授業改善の取組と課題や、自律して学ぶ力の涵養を視点に情報交換を行い、「コロナ禍における子どもの学びを止めない取組と授業改善」について須坂市立東中学校の実践発表から学び合いました。

研究主任研修会から2ヶ月。研究主任の先生を中心に授業改善を進めている学校が多くあります。

9月の研究主任研修会に参加された中野市立中野平中学校研究主任の佐藤義経先生に、その後の自校における取組についてお聞きしました。(インタビューは、次ページから掲載します)



- ・日々の教育活動で、生徒に自律した学び手としての態度を養えているかどうか大切であると思う。
- ・コロナ禍ですべてがダメになってしまったように思っていたが、この逆境をチャンスに変えている各校の取組に感銘を受けた。学校に戻り、共有し自校で生かしたい。

【9/18(金)研究主任研修会(中野・下高井会場)にて】

聞き手 研究主任として、研究主任研修会以降意識して取り組んでいることはありますか。

佐藤研究主任 自分自身もどこまでできるかというところではありますが、コロナ禍でどれだけ生徒たちが学び合いができるかや、教科の本質に迫る学びができるかという視点で一緒に授業づくりにかかわらせていただきました。また、ほかの先生の授業づくりの相談にのったり、微力ですが助言をしたりなど、自分にできることをやるようにはしています。

——そのような授業づくりの際に、気を付けていることはどんなことですか。

本校では、「ジャンプ問題」を授業に取り入れているので、どんな課題を授業の最後に用意しておけば、生徒たちがその教科の面白さに触れられるかということを授業者の先生と一緒に考えるようにしています。

——研究主任研修会では、「自律的な学び」について話題になりましたが…。



本校の授業づくりでは、もともと生徒の学び合いを大切にしています。教師の出をなるべく少なくし、生徒たちが主体的に学びたくなるような題材を提示し、生徒たちが学んでいる姿を教師が見取る立場で授業づくりをしています。自律的な学びは、本校の授業づくりの理念とつながる部分があるように思います。

——家庭学習などで、子どもたちの自律的な学びのために工夫していることはありますか。

社会科では学習のまとめとして、探究的な課題を家庭学習として出しています。例えば、1年生では世界の地理を学習していますが、学習成果を生かし、「アフリカの子どもたちを5歳まできちんと生きられるようにするにはどうすればよいか」といったような課題を単元の振り返りとして家庭学習で取り組み、これまでの学びを生かし、レポートにまとめる活動を取り入れています。

——1つの単元が終わった後に、このような探究的な課題を出しているのですか。

1つの単元終了後に、このような形の課題を出しています。今、2年生では中部地方を学習していますが、県内の産業に着目して授業をしたので、「県内の産業を紹介するパンフレットを作ってみよう」という課題を出しました。自分の家のパソコンを使って画像を貼ってもいいですかなどと聞いてくる生徒もあり、主体的に取り組もうとしているように思います。社会科では、このような形の家庭学習にしようと教科会で考えて取り組んでいます。

——社会科教科会のメンバーで、探究的な課題をどのように決め出していったのでしょうか。

教科会のそれぞれの先生が、生徒が単元で学習したことを基にしながら探究できそうなものを幾つか提案し合いながらやっています。今度、アジア州の学習後の課題は別の若い先生が提案してくれることになっています。

——社会科では、すべての学年でこういった課題に取り組むようにしているのでしょうか。

すべての学年で行うようにしています。日本国憲法を学習した3年生は、「自分たちの人権はどのように守られているか」ということをマインドマップに表しました。自分で調べ、授業の振り返りをしながら考えるという形の課題になっているように思います。また、課題に取り組む中で、教師に質問する生徒もいて、「観光業は、産業に入りますか」と聞きにきた2年生の生徒は、県内の観光地を調べ、そこが観光地として発展している理由や、どのようなことを工夫して集客しているのかについて自分でまとめ上げてきました。そのときに、教師が教えなくても、生徒がやりたくなったら自分でどんどんと追究していくのだと思いました。

——研究主任研修会では、GIGAスクール構想も話題になりました。このことについて、中野平中学校の取組はいかがでしょうか。

GIGAスクール構想が進んだら、授業中でも気

になったら自分でその場で調べられるねと、生徒とも話をすることがあります。例えば、授業中に初めて聞いた事柄が出てきた場合に、1人1台端末があればその場ですぐに調べてみるというように授業の展開も変化していくのではないかと考えています。教科書や資料集もちろん使いますが、資料集の役割も変わってくるのではないかと考えています。資料集は情報が整理されていてスッキリしていますが、1人1台端末が準備されて使えるようになれば、調べるという活動がある社会科においては、調べる活動は従来と比べて大きく変わっていくのではないかと考えています。また、先ほどお話ししたパンフレットづくりでは、今回は画用紙1枚を渡して、そこに画像をプリントアウトして切り貼りしながらまとめたのですが、こういった活動をコンピュータ上でやりたいという生徒も出てきています。パワーポイントのスライド1枚にまとめたり、実際のパンフレットみたいに写真や文字をコンピュータ上でレイアウトしたりするなど、調べた成果をまとめる形もだいぶ変わってくるように思います。社会科としては、1人1台端末の導入でこのような形になるのではないかと個人的には思っています。

——学校全体の授業改善に向けて、研究主任として今後取り組んでいこうと考えておられることはどんなことでしょうか。

近々、生徒と職員を対象とした「授業アンケート」をとることにしています。中野平中学校としての授業づくりというところにきちんと焦点を当て、「学び合い」、「ジャンプ問題」、「教科の本質にせまる学び」について、これは「主体的・対話的で深い学び」と直接リンクしてくる部分だと思っていますので、そのことを先生方にお考えいただけるように質問項目を精選し、アンケート結果をフィードバックし、まずは先生方が授業づくりについて考えることができるような仕組みをつくっていきたいと思っています。

——2学期後半から3学期、さらに来年度に向けて、授業づくり、さらに学校づくりにかかわる研究主任としての構想はいかがでしょうか。

若い講師の先生方も本校には大勢いらっしゃるのですが、可能であれば来年度からは、異年齢で経験年数を考慮し、様々な教科の先生が入り、かつ少人数の研究グループを編成したいと考えています。そして、授業を公開する場合にはグループの全員の先生が参観できるような体制にして研究を進められればと思っています。本校で実践している「学び合い」についても、それぞれがこういうことなのかなって悩み、さぐりながらやっている部分があるように感じています。本校での経験年数が多い先生の授業を見ながら、本校での授業づ



くりについて共通理解し、全職員が同一歩調で同じ基盤で授業づくりができるようにしていきたいと思っています。

研究主任として、中野平中学校の授業づくりを校内の先生方とともにどのように進めていきたいか、具体的な取組の方向を見いだそうとしている佐藤先生です。特に、OJTをどのように進めていくかという校内の体制づくりもポイントになるように感じます。

北信教育事務所は、各校で目指す生徒像を具現するために、校内の先生方を巻き込みながら授業改善の取組を推進しようとしている研究主任の先生方をこれからも支援していきます。

「第3回研究主任研修会」のお知らせ

- 期日 令和3年1月18日(月)
…北信合同庁舎(対象;中高、飯水)
令和3年2月4日(木)
…長野合同庁舎、更級教育館を予定
(対象;上高井、長野上水内、更埴)
- 内容 実践発表(GIGAスクール構想に向けた取組)、課題別グループ討議など

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、実施形態が変更になることも考えられます。実施要項など詳細は、12月中旬に各校にお知らせします。

初任者事務所研修

行われる

教師力向上研修Ⅲ 10月27日(火) 実施
更埴教育会館、上高井教育会館、中野・下高井
教育会館、長野合同庁舎別館にて分散参集

新たな視点を得て

日頃接している児童生徒の姿を想定し、児童生徒の行動や困難さの背景に目を向けることで行える支援や配慮があるのではないかと考える先生方の姿がありました。

特別支援教育講義と演習



講義と演習
資料より

先生方が どう支援したらよいか
困っているときには
児童生徒が
困った状況に置かれている
他にも 支援が必要な児童生徒が
いるかもしれない

「困っているのは、児童生徒」
という認識を持つ

見えないところを
観る

子どもたちの「見える」姿だけではなく、「見えない」ところを観て、関わる大切さを感じました。

自分では思いつかないようなアイデアや視点だ。

6月の研修と同じメンバーでのグループ協議で、子どもの実態も見えてきて、課題が明確になった。

背中を押していただき、もっとがんばろうという気持ちになった。

自己課題を意見交換

校種の違う先生方の話を聞けるのはとても刺激になる。

語り合い

グループ協議では、他学年、異校種の立場でアドバイスをもらうことで、新たな視点で自己の課題と向き合っていく先生方でした。



今年度後半の課題設定

自己の課題と向き合う

- 子どもとの接し方や伝え方など、自分の課題がより浮き彫りになりました。
- クラスに気になる子がいますが、その子の困り感に寄り添った支援をしていかなければならないと思います。
- 活動に意味を持たせて伝えながら取り組んだり、興味をひくような教材の工夫をしたりする必要があるかなと思い、日々過ごしています。
(振り返りの「まとめ記入用紙」より抜粋)

初任者研修の予定

1月29日(金)

1年次プログレス研修

シリーズ 信州型UD推進校の取組② 中野市立南宮中学校

南宮中学校では、研究主任の先生がUDリーダーとなり、LD等通級指導教室担当、教頭、教務主任などの先生方を加えて、UDチームを編成し、UD推進の取組を進めています。毎週水曜のチーム会議で取組の方向性や生徒の実態把握について話し合いを重ねています。

本年度の取組（信州型UD推進校1年次）

【全校研究テーマ】

「関わり合いながら、学びを深め、学んだことを実感できる授業はどうあったらよいか」

【重点項目】

- ① 安心して学び合える学習集団づくりのための授業改善
- ② 公開授業から学んだことについての情報共有
- ③ 信州型UDについての理解と自己課題の発見

【学校として取り組む信州型UDの窓口】

安心して参加できる授業の工夫



授業改善のよさや必要性を実感できるよう、UDチームによる授業参観を繰り返し行いました。

毎週水曜日のUDチーム会議の前半は、チームのメンバー以外の先生の授業を参観しています。その中で、「支援を必要としている生徒がいるか」という視点で授業を参観し、生徒の実態把握をしています。また、「研究テーマにつながる工夫はどこか」という視点で授業を参観し、その授業のよさと信州型UDの着眼点とのつながりを考えています。

先生方の声は、日報の裏面で紹介し、全職員で共有できるようにしています。

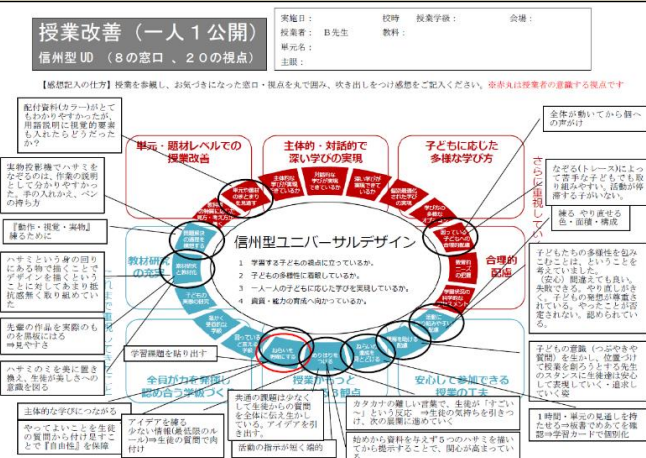
～ある日の日報の裏面より抜粋～

A先生（英語 O年生）

授業全体的に「リズム」「テンポ」がいいなと感じられる授業でした。日頃から「動と静」のメリハリや、導入場面での「発音→単語の確認→本時の主題」という流れを意識されているそうです。

単語の確認では自作映像を示し、課題の共有ができるよう配慮されていました…

信州型UDの着眼点を授業改善の視点にして授業公開をすることで、成果と課題が見えてきます。



さらに、信州型UDの着眼点を視点にした授業改善の様子を、全校にむけて公開していく取組を始めました。授業前に授業者は、改善したいポイントを信州型UDの図の中に位置付け、参観する先生方に知らせます。参観した先生方は、そのポイントについての感想や意見を、図の中に書き込みます。それ以外にも生徒の学びの様子や気付いた点などを図の中に書き込み、授業者に返します。

集められた感想・意見は、例えば、上の図のようにまとめられます。こうすることで、授業者が自らの課題が何であるかが見えてきて、それを意識した授業づくりを進めることができます。自分では気が付かなかった子どもの学びの様子や、自分の授業のよさに気付くことができ、学校全体として授業改善が進んでいます。

言語表現が少ない生徒の考えを捉えて、授業に位置付ける

～社会科 中学校1年 単元名「オセアニア州」 単元の学習問題を設定し予想を出し合う場面～

Sさんは普段から口数は少なく、数人の学級の中でも、授業で発言することはほとんどありません。社会科の教科担任のT先生は、Sさんが自信をもって自分の考えを友に伝えられるといいなと願い、声かけの工夫、座席表の活用という支援を考えて授業に臨みました。

学習カードをノートに丁寧に貼ったSさんは、「オーストラリアに暮らす移民の出身州」のグラフをじっくり見て、「アジア州や南北アメリカ州の移民が増えている」など気づいたことを学習カードに書いていきました。T先生はSさんの学習カードの記述を見て、「Sさん、いいね」と認めるようにうなずきました。グラフからの気づきや疑問を出し合う場面では、生徒の発言を受けて「同じように思った人はいる？」というT先生の投げかけに、さっと手を挙げて「自分も気づいたよ」と応えるSさんの姿がありました。

これらの生徒の疑問から「オーストラリアに暮らす移民の出身州は以前はヨーロッパ州が多かったが、なぜ最近ではアジア州が増えてきているのだろう」という単元の学習問題が設定され、資料プリントを基に自分なりの予想をもつ学習に入りました。シドニーと東京の雨温図をじっくり見て考え込んでいるSさんに、T先生は雨温図を指差しながら、季節が逆であることを一緒に確認していきます。うなずいたSさんは、「日本と気温の変わり方が逆で、気温の差がゆるい」と自分の言葉で学習カードに書きました。T先生は手にしていた座席表にSさんの考えをメモしました。資料の読み取りを支援するT先生の声かけで、3つの資料について気づいたことを書いたSさん。T先生はSさんの気づきのよさを認め、座席表にメモします。そのメモを基にT先生は指名計画を立て、その後の話し合いで、Sさんは、「シドニーは冬でも夏でも気温の差がゆるい」「オセアニアの国旗はイギリスの国旗を一部使っている」としっかりした声で発言しました。学級全員が自分の考えを発表し、友の考えを聞き、自分がもっていなかった考えに触れる学習になりました。

授業のまとめで、Sさんは、「オーストラリアは気温の差がゆるやかで過ごしやすい気候だから移民が多くなっていると思う」という単元の学習問題に対する自分なりの予想をもちました。次時、オーストラリアの気候の特色を学習してその予想を確かめることを、SさんもT先生もきっと楽しみにしているでしょう。



「学校の働き方改革」の今

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革

「学校の働き方改革」を考慮しつつ、生徒にとって望ましい部活動の環境を構築するにはどうしたらよいのでしょうか。そうした悩みを解決する部活動改革推進の第一歩として、「学校と地域が協働・融合」した部活動の具体的な実現方策とスケジュールがまとめられ、今年9月スポーツ庁・文化庁・文部科学省（担当）より示されました。

「断片的な情報を知ることはあるけれど、まとまった方向性を学びたい」という方も多いと思います。右の二次元コードから「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の概要・推進のスケジュールをご覧くださいことができます。（文化庁のホームページが開きます）「概要」は部活動の意義と課題・改革の方向性・具体的な方策の3点にまとめられており、具体的な方策については右の2点が挙げられています。詳しくはホームページにアクセスして、資料をご覧ください。



持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革 【具体的な方策】

- I. 休日の部活動の段階的な地域移行（休日の指導や大会への引率を伴う地域人材の確保、他）
- II. 合理的で効果的な部活動の推進（合同部活動の推進・主に地方大会の在り方の整理、他）



メンター方式での初任研が、校内の先生方の振り返りの機会にも

千曲市立五加小学校では、**初任者研修メンター方式モデル校**として、新しい体制での初任者研修を行っています。

初任研メンターチームは初任者A先生を含めた6名で構成されています。

A 先生	初任者	2年担任
B 先生	メンターリーダー	5年担任
C 先生	授業づくり担当	2年担任
D 先生	学級づくり担当	4年担任
E 先生	生徒指導担当	3年担任
F 先生	研修	1年担任

複数校の初任者を担当する研修コーディネーターの G 先生は、初任者への直接的な指導をはじめとし、メンターリーダーの B 先生と相談・調整をして、研修を推進します。

経験年数・担当校務・学年・教科など、様々な立場・キャリアステージにいる複数の教員で構成された**初任研メンターチーム**は、**校務分掌に位置付けられており、学校全体で「初任者を支える」体制が整えられています。**

7月に行われた「初任研指導教員研修会」の折、G 先生にメンター方式での校内研修の様子をお聞きしたところ、次のように語っていただきました。



G先生 (研修コーディネーター)

初任者の指導は、校内の先生みんなでやっています。研究主任の先生に「初任者の先生と学習問題と学習課題の違いについて考えたい」と相談すると、OJT 研修で、みんなで話題にしてくれます。このように、メンターリーダーと連携し研修をコーディネートしています。目指しているのは初任の先生の“自立”です。

その後、初任研校内研修がどのように進んでいるのか、お話をお聞きしたくなり、10月、五加小学校を訪ねました。



メンターリーダーのB先生は「**メンター方式での研修が校内の先生方の日々の実践の振り返りの機会にもつながっている**」という実感を以下のように語ってくださいました。



B先生 (メンターリーダー)

チームには講師の先生もいますし、私より年下・年上の先生もいます。様々な経験を積んだ、様々な立場の先生が A 先生の話に傾聴することが一番大事だと思っています。A 先生が今、課題にしていることや思っていること、困っていること、これからやろうとしていることを聞いていると、みんな（メンターチーム）が、座談会みたいになるのです。私もそういえば、初任の頃こういう失敗をしたなあ。そうすると、実は我々が一番研修の場になっていることを、すごく感じるのです。

五加小学校の子どもたちと、初任者と共に学んでいこうとする先生方に囲まれながら、A先生の研修が続きます。12月に控えた授業力向上研修Ⅱの授業公開に向けて、A先生は「日々の研修の成果が出せるように授業づくりをしていきたい」と、豊富に語っていただきました。

信州型コミュニティスクール

北信地区活動だより

NO. 17 (令和2年12月) 北信教育事務所生涯学習課 文責：指導主事 岡田 絵美

信州型コミュニティスクールの活動を充実させるためには「熟議」が大切です。第17号では「学校と地域で目標やビジョンの共有」を図るために、初めて『熟議』を取り入れて学校運営委員会を開催した事例を紹介します。

仁礼小



「学校と地域で想いを共有するために ～初めての『熟議』～」

仁礼小学校では、年間3回の学校運営委員会が開かれています。これまでは学校からの報告に、ご意見をいただく形をとっていましたが、あまり地域の方の声を聴くことができませんでした。そこで学校では、学校も地域も、双方が想いをざっくばらんに語り合うことで、願いを共有し、地域と共に子ども達が学ぶ活動をさらに活性化したいと考えました。事前に打ち合わせを行い、「どのような目的で」「どのような形の熟議を行い」「今後はどうつなげていくのか」を話し合い、活発な「熟議」が行えるよう計画しました。

■ 熟議を取り入れた運営委員会の実際

【仁礼小 第2回学校運営委員会の次第】

- | | | |
|---|----------------------|-------|
| 1 | はじめの言葉 (運営委員長) | … 1分 |
| 2 | 学校長挨拶 (学校長) | … 3分 |
| 3 | 協議 | |
| ① | 児童の様子から (教頭) | … 5分 |
| ② | 熟議についての説明 (指導主事) | … 5分 |
| ③ | 「熟議」育てていきたい子どもの姿について | … 30分 |
| ④ | 話し合われたことの共有 | … 8分 |
| ⑤ | 今後の協働活動推進について (指導主事) | … 7分 |
| 4 | 終わりの言葉 (運営委員長) | … 1分 |

※約1時間



【熟議とは】

熟議とは、多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら推進の方策を形成する過程のことをいいます。

当事者同士ざっくばらんに話をするを通して、目標を共有することができたり、お互いの立場や役割が明確になることで、自分がやるべきことが見えてきて、納得して行動できるようになったりする良さがあります。

【熟議の一場面】

仁礼地域の文化はたまらなく素晴らしいですよ。この地域独特の文化や歴史を大切にしたいと思います。



ふるさとのことを学ぶのはとても大事だと思います。私たち保護者も知らないことが多いので、子どもと一緒に学ぶ場にしてみたいのでは、と思いました。

今回の熟議では、想いを存分に語っていただくために、①少人数のグループで②司会とまとめは学校職員が行い③付箋などは使わず話す時間を確保する形にしました。熟議が始まり、時間が経つにつれ委員の皆さんに笑顔が見られたり、活発に考えを発言されたりしていたのが印象的でした。

お互いの想いを語り合う中で、今後、地域と学校とでどのような活動を行うのかのイメージが、学校にも委員の皆さんにも見えてきた運営委員会でした。

【参加者の感想】



熟議では、今の立場から思っていることや、取り組んでいることを幅広くうかがうことができました。どのような子どもを育てたいかというテーマから話を始めたが、それに限らず今、行っていることや今後、そういった子どもを育てていくためにやっていきたいことに話が広がり、学校と地域の協働のもち方を同じ立ち位置からイメージできました。

【教頭先生より】

今日初めてこのような熟議をやってみました。皆さんのお話を聞いたり、自分が話したりしたことで、気づかなかった点も分かって、とても良かったと思います。「知らせる・つなげる・広げる」をやってきたいです。

【運営委員長さんの終わりの言葉より】





ポイント①
「実際の活動につなげる為の一工夫」

・仁礼小では、事前に職員や児童に「地域の方と協働して行いたい活動」について要望を聞き、まとめたものを資料として準備していました。このような資料があると、実際の活動に繋がる話し合いにすることができます。



ポイント②
「熟議をその場だけで終わらせないために～知らせる・つなげる・広める～」

・熟議で話し合われた内容などは、運営委員だけでなく、広く地域の皆さんや、先生方、子ども達に知らせ、想いを共有する人を広げたいものです。運営委員さんには、地域に「ロコミ」で広げていただき、学校では、写真や掲示物等で知らせる等の、事後の活動が大事です。

地域の方と協働して行いたい活動（職員・児童からの要望）

1 職員から

(1) 地域の方と一緒にやってみたい活動、地域の方に教えてほしい活動

- ①5年 春～秋 米づくり
- ②3年生 昔のくらし、遊びを教えてください
- ③戦争体験を聞く機会
- ④春～秋 学校花壇作り
- ⑤1年夏 川遊びを一緒に行ってほしい
- ⑥低学年 夏にカブトムシなどの昆虫採集、育て方を教えてください
- ⑦放課後学習室の時間に、学習とは別に放課後に子どもたちが地域の方とニュースボートなどを楽しむ。

(2) 今後の各学年の学習計画において、地域の方から教えていただきたい活動

- ①2年 12月 みそ造り（中野市の業者さんを検討中）
- ②4年 11～12月 小麦を製粉したいが細かい土が入ってしまうので、ちゃんと製粉する方法を教えてください
- ③4年 11～12月 小麦粉（強力粉）で作る料理（手打ちうどん、パンなど）を教えてください
- ④3年 3学期 社会「市の移り変わり」の単元で「仁礼地区の移り変わり」についての学習（仁礼地区に残る史跡、伝承されるもの）

2 児童から

(1) コロナウィルスのことが落ち着いたらぜひやって欲しいこと

- ①お祭り、御祭礼、獅子舞、お神楽、御神輿
- ②地区の行事（花火大会、夏祭り、クリスマス会、きもだめし、お泊まり会、1年生を迎える会、流しそうめん、キャンプ）
- ③ドッジビー大会
- (2) 今後先で、仁礼地区でしてほしい、逆に仁礼地区へしてみたいこと
- ①クリスマス会
- ②6年生を送る会
- ③ビンゴ大会
- ④神社の落ち葉拾い

「熟議」を取り入れたい学校を支援します～指導主事がお伺いします～

熟議を取り入れるにあたり、熟議についての説明や、具体的な方法等についての情報提供はもちろん、学校や地域の実態に合わせてどのように行うのかを一緒に考えさせていただきます。当日も、運営委員会の中で必要に応じて説明を行ったり、熟議を進めたり等、必要な支援を行います。

まずは、下記連絡先までお気軽にお電話ください。

地域とともにある学校づくりの充実に向けて、学校や地域に出向いての信州型CSの基礎研修や実践事例の紹介などをします。お気軽に連絡していただけたらと思います。

■■お問い合わせ先■■

北信教育事務所生涯学習課 〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1 担当：岡田
Tel：026-234-9552 E-mail：hokushinky@pref.nagano.lg.jp